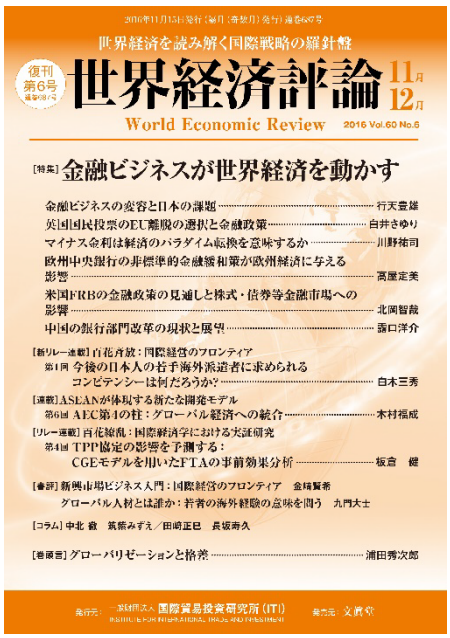
Back Number

本論文は

世界経済評論 2016 年11/12月号

(2016 年 9 月発行)

掲載の記事です


2016年11月15日発行（第11月・第12月）隔月刊 通巻682号

世界経済を読み解く国際戦略の羅針盤

復刊 第6号 通巻682号

世界経済評論 11月 12月

World Economic Review 2016 Vol.60 No.6

[特集] 金融ビジネスが世界経済を動かす

金融ビジネスの変容と日本の課題 …… 行天豊雄
英国国民投票のEU離脱の選択と金融政策 …… 白井さゆり
マイナス金利は経済のパラダイム転換を意味するか …… 川野祐司
欧州中央銀行の非標準的金融緩和策が欧州経済に与える影響 …… 高屋定美
米国FRBの金融政策の見通しと株式・債券等金融市場への影響 …… 北岡智裁
中国の銀行部門改革の現状と展望 …… 露口洋介

[新リレー連載] 百花斉放：国際経営のフロンティア
第1回 今後の日本人の若手海外派遣者に求められるコンピテンシーは何だろうか？ …… 白木三秀

[連載] ASEANが体現する新たな開発モデル
第6回 AEC第4の柱：グローバル経済への統合 …… 木村福成

[リレー連載] 百花繚乱：国際経済学における実証研究
第4回 TPP協定の影響を予測する：CGEモデルを用いたFTAの事前効果分析 …… 板倉 健

[書評] 新興市場ビジネス入門：国際経営のフロンティア 金堅敏著
グローバル人材とは誰か：若者の海外経験の意味を問う 九門大士

[コラム] 中北 徹 筑紫みずえ／田崎正巳 長坂寿久

[巻頭言] グローバリゼーションと格差 …… 浦田秀次郎

発行元：一般財団法人 国際貿易投資研究所（ITI） 発売元：文眞堂

世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料
1,320円×6冊＝7,920円 ▶ 6,600円 税込

17% 送料無料 OFF

富士山マガジンサービス限定特典

定期購読期間中 デジタル版バックナンバー ※通巻682号以降 読み放題!!

世界経済評論 定期購読

[24時間・年中無休]
0120-223-223

お支払い方法
Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp 雑誌のオンライン書店

グローバル人材とは誰か：若者の海外経験の意味を問う

亜細亜大学特任教授　九門 大士

［著者］加藤恵津子（かとう えつこ）
国際基督教大学教授
久木元真吾（くきもと しんご）
公益財団法人家計経済研究所次席研究員
［発行］青弓社，2016 年
［判型］四六判，320 頁
［定価］本体 2600 円＋税

本書は，海外渡航する若者が実際は多いにもかかわらず，なぜ若者は「内向き」と言われ「グローバル人材」を育成しなければならないか，近年行政や企業が育成の必要性を訴える「グローバル人材」とは，という問いに対して若者への調査を通じて実態を分析し，２つの新たな視点を提示している。

１点目は，自ら海外に出て行く若者達と行政や企業が求める「グローバル人材」像にギャップがあるという点だ。それは若者間の階層やジェンダー格差という問題に由来するとし，海外渡航して帰国している人材は一定程度存在するにも関わらず，企業や社会の中で活用されていない現状を鋭く指摘している。その上で，「グローバル人材」という特権的な人材層だけに目を向けるのではなく，若者のキャリア形成の多様化を説く主張は傾聴に値する。日本では，大学卒業後すぐに日本で正社員として働くというキャリアが当然とされているが，海外では働き始める時期も働き方も各々である。

２点目は，「グローバル人材」に代わる「グローバル市民」という視点である。「グローバル市民」とは，地球または人類全体に帰属し，地球上のどこで何をしていても，身の回りや社会を良くしようとする発想に基づくものとされる。

著者は，日本の若者も「主語としての自分」を明確にすることが必要であり，「グローバル市民」として生きることでそれが明確になるとしている。日本にいると自分とは何者かを考える機会が少ないが，こうした意識を持つ若者が増えることは重要である。

ただ，本書にも若干の課題がみられる。その１つは，社会人になってからの海外渡航のみならず，高校や大学での留学の意義についても一定の評価がなされるべきという点だ。大学のグローバル人材育成はターゲットが狭すぎて大きな変化につながらないとあるが，それでも在学中の留学や海外インターンシップから得られるものは大きい。重要なのは，留学を促進すると同時に，留学以外の海外渡航に対する評価を客観的に行い，全ての若者のキャリアの多様性に寛容になることであろう。

こうした課題が見られるとはいえ，本書が描く実態は日本社会全体として真剣に考えるべき問題である。私自身「グローバル人材」の教育に携わる者としても非常に示唆深く，刺激を受けた良書である。

（くもん たかし）